



烏ヶ森堂物語 高橋正人作



# 轉法輪

弘法大師

衆生は痴暗にして  
自ら覺るに由無し

令和二年四月一日発行  
 発行所 犬飼山轉法輪寺  
 〒六三七一〇〇七二  
 奈良県五條市犬飼町一二四  
 電話〇七四七二二一四四〇三  
 FAX〇七四七一五二四七一七  
 編集発行人 桑山聖淳  
 印刷所 森本印刷工業所  
 和・伊都郡かつらぎ町妙寺

春の気配もようやく整い、うららかな季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。流行り病の報道は絶えませんが、法要は神仏へのお供えですから、法要は常の通り行います。その功德を檀信徒みなさまにふりかえて頂くよう、お勤めを致します。

感染防止のため、ご参拝の方にはご不便おかけする点もあるかと思いますが、ご了承お願い致します。

**法要** 午前九時半より

内吉野結衆寺院総出仕

**法話** 午前十一時より

「嚴島神社と

弘法大師と大願寺」

大願寺住職 平山真明僧正

昼食接待

お餅のふるまい

犬飼寺青空マルシエは、

十月十日(土)明神祭の日に延期します

犬飼山轉法輪寺

お大師さま  
のお言葉

我々は仏の力添えがあってはじめて、智慧を授かることが出来るのです。思い上がることなく、精進することが大切です。

# 箱車の ランナー

住職 桑山慈紹



先日お寺にNHKの方が、カメラを持って取材に来ました。その内容は、「聖火リレー」。来る四月十二日、轉法輪寺の前を聖火ランナーが走るのです。(※中止になりました)もう六十年ほど前のことですが、前回の東京オリンピックの時も、お

寺の前を走ったのです。私は中学校に入ったころだったかと思えます。田舎ですから、沿道で待っているのは私ひとりでした。空き地に座ってじっと来るのを待っていると、たしか先頭は白バイで、その後を二十人位の走者が整然とやってきました。でも、たくさんのランナーがいて、一体誰がトーチを持っているのか分からず、きよろきよろと探している間に通り抜けていきました。あとに白い煙が立ち込めていた、その光景はしっかりと覚えています。

朝日新聞に「聖火がまちに」という題で連載があり、各地の聖火ランナーたちの背景が語られています。その二月二十日の記事、「箱車のランナー」が目に残りました。

箱車と言われてピンとくる人はあまり多くないかもしれませんが、私には印象深い乗り物です。それは、人がちようど一人座れるかどうかの木箱に車輪をつけたもので、今は車

いすに取って代わられたものです。私にとつての箱車は、四国霊場に納められている姿です。歩くことが出来ない方を箱車に乗せて、四国の道を遍路して回られていたのです。もちろん、モーターなどはついていません。山あり谷ありの遍路道、誰かの助けを借りて、必死にお大師様の姿を追いかけたのでしょうか。



お大師様の霊驗を頂いて、歩けるようになつた方が、後に続くお遍路さんの励ましになるようにと、霊場

# 輪 法 轉 (3)

に自分の乗っていた箱車を納めていたのです。

新聞の記事に、「この令和の時代に、箱車がまだあるんだ…」と驚きの思いで読み進めました。箱車に乗って聖火ランナーを務めるのは八十六歳のおじいさん！

— 生後まもなく小児まひにかかり、それから座ることや寝返りも出来なくなりました。学校にもいけず、文字は独学。三十七歳の時、弟に作ってもらった箱車によって、行動の範囲が広がった。手に聖火のトーチを持つことはできないが、車に固定して走ることができる！。

続いて語られたのが「楽しんで生きていく姿をみせたい」というメッセージです。重い障害があっても、歳をとっていても、挑戦すること、楽しむことはできるんだと示してくれている姿に勇気を受け取りました。四国別格霊場十二番に「いざり松

延命寺」というお寺があります。お参りの方の多くが、この「千枚通し」を求められます。むかし弘法大師が通りかかられた時に、身体の不自由な方が苦勞されているのを見て、お加持をして、六字の名号（南無阿弥陀仏）の千枚通しを授けられました。その御利益により全快し、出家得度して、千枚通しを受け継いだと伝えられています。

箱車や千枚通しに伝わる、お大師様が見ておられた優しいまなざしには、身体の不自由な方に対して、我々が持つべき心を示してくれていると感じます。

聖火ランナーはみんなの手本であり、国民の代表ともいえる人たちが選ばれるものでしょう。それは身体の強さや頭の良さだけではない、私たちがこれからも大切に持ち続けるべき優しさや思いやり、人を励まし元気づけることが出来る人なのですよ。

## 生かせいのうち

### 【第六十四話】

名誉住職 桑山聖規



### 洒水しゃすいの功德

洒水とは、導師が道場・人・お供え物などを清める作法です。導師が三つ、器を打って、散杖という短い棒を振るのを見たことがあるでしょ

家相・方位の相談をお受けいたします。新築・リフォーム・転宅の際はご相談ください。

う。此の作法により、道場が清浄となる、真言宗の傳燈でんとうの秘法であります。

当寺でも法要の終わりに、お参りされている檀信徒みなさまに向き直って、此の秘法を行っています。

先日の法要のこと、お参りのみなさまに向けて、導師の洒水作法が始まると同時に、斜め後ろに座っている私の体に異変が起りました。それは、私の身体にあつた痛みがすうーと消えたのです。今迄こんな体験がありません。

洒水は檀信徒みなさまの方に向けているのに、後方の私に靈験があるとはどういうわけか。洒水作法は、向けている方のみならず、堂内いっばいに広がり、不浄や一切の障しょうひ碍を除くのだと感心しました。

洒水加持は有難い作法です。合掌し、功德を心から信じて受けてください。

## 令和の世に甦れ、

### わが母よ

坂田笑津子

安倍首相が、「女性の輝く社会を！」と発言される度に私は亡くなった母のことを思った。もし、母が平成いや令和の時代に生まれていたら――。

母は大正の終わり、七人兄弟姉妹の三番目として山村に生まれた。作文が上手で、よく郡や村の代表になったという。女学校に進みたかったが、そのころ進学するのは村長さんか校長先生の娘くらいで、母には叶わぬ夢だった。

勤めていたキヨスクの会議に行く時、「これが社長会議やつたらなあー」とお茶目な顔で笑ったことがある。母の夢は女社長になることだったらしい。活発で、ご近所の主婦の誰よりも早く単車に乗っていた。読書が

好きで、中でも忍者の出てくる小説が大好きだった。そして面白おかしく聞かせてくれた。

あるとき、里帰りして母と隣り合わせに寝ていると、突然「忍法！腹移しの術！」と言って私を後ろから抱くようにして、自分の腹を押し付けてきた。お世継ぎのできない奥方に、くノ一が自分の宿した子を忍術で移すのだという。「そんなアホなく」と大笑いしながら私は母の気持ちが悪かった。あれは、なかなか子を授からない私への慰めだったのか、励ましたったのか。その後、母の忍術が効いたのか、いや、そんなはずはないが、私は二人の子を授かった。

とにかくユニークで、良い意味でも悪い意味でも一生懸命な人だった。母のような性格なら、今の時代に生きていたら、もつと自分を生かせるのではないかと残念に思う。母たちが生きた時代は、女性は輝くよりも

目立たぬように、控えめにするのが良しとされた。

「お母ちゃん！きつと生まれ変わった、女社長になるんやで、大臣にもなれる時代や。お母ちゃんならなれる！」

赤色灯の回転する道端で、命を終えた母の魂に私はいつも呼びかける。

## 写経の功德

桑山蓮紹(逸子)

むかし疫病えきびょうが流行し、多くの命が去うしなわれたと云われています。時の天皇は疫病退散を祈り、般若心経を写経されました。

私が写経を始めたのは、お腹に子どもを宿した昭和二十六年でした。旅に出るときは写経用紙と筆ペンを持って、電車の中でも座席があれば書かせていただきます。仏壇の前で心落ち着けて書くのが一番良いので

すが、何しろ多忙な毎日です。

平成十五年六月、私は病室で写経をしていました。足の手術を受けるためです。毎日お見舞いに来てくれた息子(現住職)に写経用具を持ってきてもらい、朝昼夕と三巻を目標にしました。息子は私の手術中も、病室で写経をしながら待っていており、たいへん心強く思ったものです。そのお陰か、痛みも少なく二ヶ月で退院することが出来ました。

八十九才の身残り少ない人生、朝は希望に目覚め、昼は自分の出来る限りを頑張り、夜は周囲の方の助けや愛情に感謝の祈りを捧げてやすむ毎日です。

いま世界中で疫病が大流行して、オリンピックも危ぶまれています。今こそ国境を越えて、世界中一丸となつて平和と疫病退散の祈りを捧げてまいりたいと思います。写経の功德、祈りの不思議はきつと神仏に通じると信じます。

### 寄稿文

五條市黒駒町

山本公子

平成二十三年、三月十一日。東日本大震災。辛かっただろう、苦しかっただろう、どんな言葉をかければいいのか。全てを飲みこむ大津波をテレビで見、私はショックのあまり、呆然としていました。

それから何年か過ぎて、轉法輪寺さまの「にぎり地藏」を被災地に奉納する企画を知り、姉と一緒に参加しました。

自分たちの作ったお地藏さまが遠く宮城の徳泉寺に納められている。いつの日か私もお参りがしたい、という心が強くなり、思い切つて決心しました。

夫は七十九才、私は七十七才。遠くまで行くのは不安もありましたが、地図と住所を片手に二人、お土産を持って、仙台行きの夜行フェリーに乗り込みます。仙台に着いたのは次

の日の夕方。ホテルで一泊して、三日目の朝、巨理郡山元町の徳泉寺を目指しました。

最寄りの坂元駅を降りると、遠くに海が見えました。堤防が新しく出来ていて、家々も新しく、公園のように見えます。

お地藏さまは、徳本寺に安置されており、ご住職様、奥様に出迎えて頂きました。皆さんから、可愛いお地藏さんねと言ってくれていますと……

徳泉寺は流されてしまいましたが、砂の中からご本尊様やお位牌などは、地域の皆さんが見つけ出して下さったそうです。このご本尊様を抛りどころとすれば、どんな困難に遭遇しても、心一つに乗り越えることができるかと信じて、新たに「一心本尊」と名付けられたそうです。

深い悲しみ、苦しさ、自然災害の恐ろしさは、言葉では言い表せない苦勞があったと思います。よくここまで頑張つてこられたと涙がこぼれ

そうになりました。

「遠くから来て下さりありがとうございますと涙ぐむご住職様と奥様に見送られ、帰りはなごりがつきませんでした。

五條からのお土産、ジャーマンアイリスの花が山元の地で咲きますように。そして一日でも早く元の生活に戻れますように。そう祈り、何度も振り返りながら、このご縁に感謝してお寺をあとにしました。



2020年3月11日に落慶法要が営まれました。

《編集追記》

津波がさらっていった徳泉寺は、九年の歳月を経て無事に再建されました。地域の人々が集える部屋を備えて、また全国各地からの復興を祈る一文字写経を壁に掲げた立派なお堂です。もちろん、私達が作った一心地藏尊も。これから先もずっと、地元の心の支えとして、時を重ねていくことでしょう。

〈寺嫁日記〉

あした天気になあれ

その七

小松裕衣

「へえー、すごいんだね！」

おやすみ前の時間、三男の義典が「ねえお母さん、これ読んで」と本を持ってきました。『おにの子あかたろう』シリーズで、小さい頃、私も母にたくさん読んでもらった大好きな本です。

ご詠歌、祈禱太鼓の練習会を開いています。  
体験参加歓迎！寺務所までお問い合わせください。

# 輪 法 轉 (7)

この本の主人公は、あかたろうくん。あかたろうくんには三人の友達がいる、青おに、緑おに、黄おにくんがいます。みんなで仲良く遊んでいるときに、みんな体の色が違うのはなぜなんだろう？という話になりました。

緑おには、緑の葉っぱから生まれてきたからだといいました。黄おにはお月さまから、青おには青い海から飛び出してきたと言いました。けれど、あかたろうくんは自分がどこから来たのか知らなくて、友達にからかわれてしまいます。急いで家に帰ってお母さんに尋ねると、「真っ赤な炎の中から生まれてきたのよ」と教えてもらいました。お友達に得意げに自分のルーツを語るあかたろうくん、みんなが「へえー、すごいんだね！」と声をかけて、「違うことはちっとも不思議じゃあない」と認め合って物語は終わります。

話を聞き終えた義典が、「ねえお母さん。ぼくはどこからやってきた

の？」と聞きました。隣にいた長男嵩典たかねりが、「お母さんから生まれてきたんだよ。子宮の中で赤ちゃんが育つと保健の授業で習ったよ！」と言いました。するとその隣から、次男照典あきりが「ぼくは土から生まれてきたと思うー！びせいぶつが土から生まれて、草や木が育つて、それを草食動物、肉食動物が食べ、人間がそれを食べるんだもん」「そっかあ……土から生まれて、死んだら土に還るんだねえ」三人は納得したように眠りにつきましました。

私は、長男と同じ小学四年生の時に出会った、ある人のことを思い出していました。私の鼻の上に七ミリ位のイボが出来て、皮膚科のおじいさん先生に診てもらったのです。先生は「ハイハイハイ……」と、ちゃんと薬をつけて、あつという間に診おわりました。一週間くらいでイボはきれいにとれて、私は嬉しくて、先生にお手紙を書いたのです。しばらくして、おじいさん先生か

らお返事があり、「この年になるまで、患者さんから感謝の手紙をもらったのは初めてであること、いつか自分の年が役に立つことがあるかもしれない」ということが丁寧に綴られていました。

高校生のころ、「なりたい自分」と「なれない自分」の間で苦しんだとき、おじいさん先生は（当時高価だったと思います）望遠鏡をプレゼントしてくださり、「足元をしっかり見ることは大事ですが、時には遠いところを見ることも大切ですよ」と書いてくれました。先生との文通は、私が嫁ぐまで続きました。

学校がお休みになったあいだは、子どもたちの成長を見る良い機会でもありました。人は信じて励まし、見守られることによつて育つのだと、改めて考えさせられたことでした。



本誌『轉法輪』に掲載する寄稿文を募集しています。仏さまに関することや、心動かされたエピソードがあれば寺務所までお送りください。



正御影供

来る

4月19日(回)

法要 午前九時半より

法話 午前十一時より

「嚴島神社と弘法大師と大願寺」

広島県大願寺

住職 平山真明僧正



プロフィール

宮島町福祉協議会理事、民生委員副会長、広島密教青年教師会会長など多くの役職を歴任。現在は、高野山真言宗宗会議員として本山の運営に関わる。

日本三大弁財天の一つ、嚴島弁財天を奉安する古刹、大願寺の住職。

— ご奉仕のお願い —

正御影供の諸準備のため、お手伝いをよろしくお願い申し上げます。

四月十八日(土) 旗立・掃除など

四月十九日(日) 当日(八時から)

お世話人様は、ハツピ・袈裟腕念珠をご着衣下さい。

四月二十日(月) 後片付け

烏ヶ森堂物語

今から千二百年前のこと、京の町から南へ急ぐ旅人がいた。墨染の衣に身を固め、小さな荷物を背負っていた。「空海よ、そなたが唐から投げた三鉢。その落ちた所が修行の場所としてふさわしい。それは紀州の山並みの向こう、八葉の峰に囲まれた場所だ。」

旅人は仏のお告げの通り、大和を南へ南へと急いだ。旅人は険しい山々を越え、旅を続けたが、途中折から降りだした大雨に行く手を遮られてしまう。その時、旅人の頭上に沢山のガラスが現れた。ガラスたちは翼をいっばいに広げ、旅人を大雨から守ったという。無事に歩みを進め、狩場明神とも出会い、白黒の二匹の犬に導かれ、高野山に辿り着いた。それから何度もこの地をお訪ねになられた大師。その時は必ずガラスの鳴き声が響き、嬉しそうに頭上を舞っていたという。『五條のむかし話』より

— 轉法輪寺の奥の院と言われる烏ヶ森堂は、村の小さなほくらさんです。この度修築六十年を記念し、紙芝居と絵はがき(消しゴムはんこ)を制作しました。—